

# 基幹労連シニアクラブ・ニュース

基幹労連退職者の会事務局

2015/09/25

第 21 号

## 「みんなで安倍政権に NO！ 国民の声、怒りの大行動」



連合、民主党、退職者連合、市民団体などで作る「みんなで安倍政権に NO！ 国民の声、怒りの 8・23 大行動」実行委員会は 8 月 23 日（日）、安保法案反対、労働法制改悪反対を掲げ、約 1 万 3 千人が国会を取り囲みました。基幹労連シニアクラブとしても、基幹労連メンバーと共に行動に参加しました。

「私たちは、戦争の悲惨さと平和の有難さを体験した世代だ。安保法案に断固として反対する。連合と共に国民世論づくりの行動をさらに強め、この法案を廃案に追い込んでいく」。退職者連合の阿部保吉会長は、国会に向けこう決意を表明。夏の日差しが照りつける中、「安倍政権 NO！」を叫ぶ 国民の怒りの声が、国会に響き渡りました。

また、9 月 15 日（火）の全国高齢者集会の終了後には退職者連合独自の国会請願デモを行うとともに、連合の主催する安全保障関連法案成立阻止行動にも参加しました。

結果的には、与党の数の力で強引に成立されてしまいましたが、今後とも民主主義に対する暴挙を世論に訴えるとともに、国民の声を反映できる政治を取り戻す取り組みを強化していく必要があります。

### シニアクラブ第 4 回総会を 11 月 24 日（火）に開催します

とき 2015 年 11 月 24 日（火）15 時開会～25 日（水）朝解散

ところ 愛知県豊橋市 「ホテルシーパレスリゾート（豊橋）」

議題 会則の改定

2016 年度活動計画・予算

役員を選任 他

構成員 各県本部退職者組織代表 各 1 名 + 各県本部事務局長 シニアクラブ役員

議案 シニアクラブニュース第 22 号（11 月初旬配信予定）に掲載します。

## ブロック懇談会を開催(8/26・北陸、9/9・中国)



【8月26日開催北陸ブロック懇談会】

8月26日（水）午後、基幹労連中央本部会議室において、シニアクラブ北陸ブロック懇談会を開催しました。この会合には富山県、新潟県から退職者の会代表者がそれぞれ2名参加されました。

また、9月9日（水）には広島県ニューヒロデンホテルにおいて、シニアクラブ中国ブロック懇談会を開催しました。この会合には岡山県、広島県、山口県から退職者の会代表者がそれぞれ1～2名参加されました。

どちらの会合においても、中央と各県におけるこの間の活動報告を行うとともに、今後の活動をど



のように充実させていくのか、とりわけ来年の参議院議員選挙にシニアクラブとしてどのような取り組みが展開できるのかについて率直に意見交換しました。

組織充実の課題、政策実現の取り組みは、各県本部によって事情が異なることから画一的対応を行うのではなく、状況を踏まえて着実にやっていくことを確認しました。

【9月9日開催中国ブロック懇談会】

## 北海道本部退職者の会 新たな体制に移行

8月29日（土）室蘭市において、「北海道本部退職者の会新体制設立の総会」が開催されました。新組織は、北海道本部三役・幹事経験者を中心に構成する体制となり、代表幹事には渡部正寿氏（基幹労連北海道本部初代委員長）が就任しました。

総会には、シニアクラブの宮園会長が参加して激励と連帯の挨拶を行い、総会後の懇談会では、構成組織の役員経験者の加入を含めた会員拡大や、来夏の参議院選挙における「とどろき利治氏」の支援など、率直な意見交換が行われました。

【代表幹事 渡部正寿氏】



## 基幹労連が第13回定期中間大会を開催

9月3・4日、広島国際会議場において第13回定期中間大会が開催されました。大会では、来賓としてシニアクラブの宮園会長が壇上で紹介されました。



あいさつに立った工藤智司委員長は、経済の好循環実現のためには労働条件の「底上げ」と併せて「良質な雇用」の実現が重要であることを強調していました。大会全体を通して組織内候補・とどろき利治氏の来夏の参議院選挙で捲土重来を期すことが、力強く確認されました。

また、今大会では役員改選時期を連合に合わせる規約改正を実施し、来年選出の役員の任期を1年とすることを決めました。

【広島国際会議場 第13回定期中間大会】

## 日本退職者連合の全国高齢者集会在開催されました

退職者連合は、安民法案をめぐる国会が緊迫する中、9月15日（火）午前9時半から、霞が関の日比谷公会堂で2015全国高齢者集会を開催しました。

集会は最後に「安倍政権と厳しく対峙し、連合とともに政治の流れを変えるために来年の参議院選挙に闘い進む」とのアピールを採択、集会后、国会に向けて請願デモを行いました。

## 基 調 報 告

国の政策運営のまずさや方向違いが、庶民の暮らしから夢や希望を奪い取っています。とりわけ私たち高齢者にとって最も大切な、年金・医療・介護などの社会保障制度が大きく揺らいでいます。政府・与党は、その原因は少子・高齢化による財源不足だとしています。果たしてそうでしょうか。その背景にはもう一つ、私たちが見落としてならないことがあります。それは、雇用・労働法制が改悪され、不安定雇用・低賃金労働者が激増していることです。むしろ、そのことこそが少子・高齢化に



拍車をかけ、社会保障財政のみならず、国・地方の税金をも圧迫している最大の要因だといっても過言ではありません。

人口の高齢化が進めば、年金・医療・介護などの費用がかさむのは当然です。それを見越して制度を将来世代につなげて行くには、何よりも雇用の安定なければなりません。しかし政府・与党は、肝心の雇用の改善はなおざりにし、いや、産業・企業にとってさらに使い勝手の良い形に緩和・改悪させながら、各種給付の切下げと負担増によって収支のバランスを図ることに懸命です。

いま、一部の産業・企業では人手不足だと騒いでいます。しかし、少子化だ人手不足だ

といわれながら、それでも安定した仕事に就けない若者はまだまだ増え続けるでしょう。税金や社会保険料は上がってもそれに見合うだけの賃金は上がらない、雇用が安定しない、被用者年金保険にも入れてもらえない、だから先の見通しがたたない。そのために結婚したくてもできない若者、子どもを産みたくても産めないご夫婦、年老いて住む所さえ確保できない低所得高齢単身者が増え続けているのです。まさに戦後70年、今日ほど労働者が粗末に扱われている時代はありません。

これでは、「日本は世界に冠たる長寿国だ」などといわれても、庶民にとっては親の長寿も自分の長寿も素直に喜べない、そんな国になりつつあるのではないのでしょうか。

日本をそんな悲しい国にしてはなりません。国がいま成すべきことは、労働者派遣法や労働基準法を改悪し労働者を粗末に扱うことなく、誰もが生き生きと安心して暮らせる社会にすることです。そのために、来年の参議院選挙は私たちにとって「政治の流れを変える」重要な闘いです。みんなで力を合わせて勝ち抜こうではありませんか。

2015年9月15日

日本退職者連合全国高齢者集会